中略此籀文、○註略象臂脛之形、人以從生、貴於橫生、故象其上臂下脛、如鄭切、十二部、凡人之屬皆从人、

〔日本釋名人品中〕人　人は萬物の靈にて、人にならぶ物なし、天下にたゞ一の物なる故一と云意、又天にある物、日より尊きはなく、地にある物、人より尊きはなし、日の友なり、故にひとゝ云、もを略す、但上古の自語ならば、しゐてみだりにときがたし、

〔東雅五人倫〕人ヒト　義不詳、上古の語に、ヒといひしは、靈也、又善也、トといひしは、止也、所也、ヒトとは靈の止る所といふが如し、さらば惟人萬物之靈などいふ事に、其義自ら合ひぬるにぞあるべき、其神聖の德あるをば、尊び尙びてカミといひし事は、前にしるせり、總言へばカミといひ、ヒトといふ、共にこれ其善を極め云ふの稱なるべし、古語にヒといひしは、靈の義なるよし、前の日の註に見えたり、善也といふ事は、萬葉集抄に見えたり、古の語に、ヒトといふ事を、トとのみもいふ、舊說にツといふは、猶人といふが如しともいひけり、ツといひトといふが如きは、卽語の轉ぜしなり、

〔伊呂波字類抄仁字疊〕人間。

〔運歩色葉集丹〕人間クン

〔文德實錄九〕天安元年八月壬辰、夜快雨、先是數日不雨、田畝頗苦、今日人間歡喜以爲冥感也、

〔大鏡三太政大臣實賴〕佐理大貳よのてかきの上手、○中略わがする事を人間の人のほめあがむるだに、けうある事にてこそあれ、まして神の御心に、さまでほしくおぼしけんこそ、いかに御心おごりし給ふらむ、

〔遊仙窟〕乃人間ヨノナカ之妙絕、目所不見耳所不聞、

〔謠曲〕熊野

シテ草木は雨露のめぐみ、養ひえては花の父母たり、況や人間においてをや、○下略

〔倭名類聚抄二微賤〕人民　日本紀云、人民、和名比止久佐、一云於保大加冥、

〔箋注倭名類聚抄一男女〕神代紀上人民、訓比止久佐、崇神十二年、垂仁二十五年、景行十二年、神功伐